

令和6年度 第2回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

日 時：令和6年10月23日（水）15:00～16:30

場 所：富山県民会館 509号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会5名、学術振興課長、中学校長会1名 計12名

（出席者からの主な発言・意見等）

※ 今回、中学校長会に出席いただき、中学校における進路指導の現状等について委員からの質問に回答後、意見交換を行った。

1 中学校の進路指導の現状等について

（1）中学校の進路指導について

- ・ 中学校での進路指導は、自己理解に係る学習活動や、職業までを見据えた将来設計、短期の進路先である高校調べを3本柱として、各学年で計画的に指導を行っている。
- ・ 進路は本人の希望を大切にするが、学校側から進路先を検討するための材料や視点を提供し、面談で一緒に検討している。

（2）通信制高校について

- ・ 不登校生徒が増加する中、生徒の進路選択の一つとして幅が広がったが、不登校＝通信制ではない。
- ・ 本校が富山県にないため、学校生活の具体的な様子がわからない。また、新しい学校もあり卒業後の進路状況が分からず、中学校の担任からの具体的な情報提供が難しい。

（3）県外への進学について

- ・ 県外へ進学する生徒の主な理由は部活動であり、早い時期から希望を固めている生徒も少なくない。
- ・ 県外進学を希望していた生徒が通学時間や一人暮らしの生活などを考えた結果、最終的に県内高校へ進学したケースもある。

(4) 2次募集について

- 中学3年生の段階で明確に将来を見据えて進路選択ができる生徒は少ない。異なる学科への進学を機にその分野に興味関心をもつこともある。2次募集を希望する生徒には、本人の適性や興味関心などを踏まえて適切に進路指導を行っている。
- 2次募集の制度は進路の選択肢の幅を広げている。
- 県立の2次募集の合格者が1次合格者と齟齬が出ないようにしてほしい。

(5) 中高一貫校について

- 設置のねらいが明確に中学生に伝われば、興味関心を持ち、選択肢の一つとして考える生徒が出てくるのではないか。

(6) 外国籍の生徒への対応について

- 現行の入試制度に対応できる学力を身につけることが難しい外国籍の生徒も多く、特別入学枠のような対応をしていただけるとありがたい。
- 職業人口としても外国人が増加する中、その子どもの教育への対応が必要だと考える。現行制度では、中学校で学びの場が途絶える。

(7) 今後の高校の学校数や定員について

- 定員割れという数値的な問題のみに縛られるのではなく、本県としてどのような人材を育てていくのか、どのような学科がどの地域に何校あれば良いのか、公私立の枠を超えて考えていくことも考え方の一つではないか。

2 令和8年度以降の公私比率について

- 将来的には、公私比率や基準を設定しないことも考えられるが、当面は公私比率を緩和するなどの新たな基準が必要ではないか。
- 公私比率を緩和すれば定員割れが増える。県立でさらに定員割れが生じた場合、2次募集でさらに私立合格者が県立に流れる。私立は入学者数の把握が困難な上、経営にも大きく影響する。
- 志願倍率や入学者数などの実態に即した定員が必要である。
- これまで公私比率は、定時制や通信制などを除外してきた。公私比率の考え方を維持するのであれば、この除外していた一定割合をどうするか等の議論も必要。
- 新たな提案があれば、シミュレーションを作成することができる。公私比率について、引き続き議論が必要。